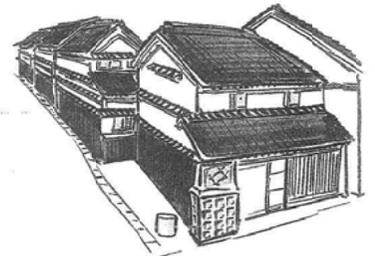


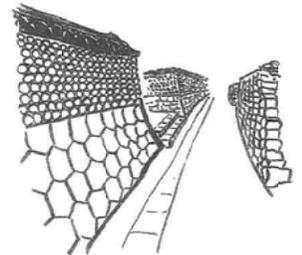
まちなみ散歩マップ



笠木山 ミニ八十八ヶ所
短時間で巡ることができる。御大師様の御利益がいっぱい。



水切瓦のある家
雨水が壁を伝わるのを防ぐためにつくられた。



石くろのある通り
河原や浜の石を使った芸術作品、いしくろは台風から家を守るためにつくられた。

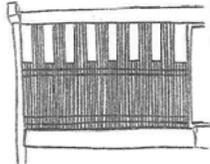
かし屋
トンデンカン、トンデンカン、と音が聞こえて来そうです。農具や包丁などを造っていたところ。



なまこ壁の家
風雨から壁を守るため建物の隅や壁の腰の部分に使われ、瓦の目地を蒲鉾型の漆喰で仕上げている。



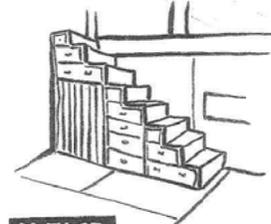
旧郵便局
大正11年~12年頃の建築。昭和40年頃まで郵便局として使っていた。屋根の鬼瓦の「〒」マークに注目。



格子
室内に光や風を通し、外からは直接室内を見透かされない。実用と美を備えた装置。



井戸
共同で使われ近隣の人々の交流の場となっていた。(井戸端会議)



箱階段
階段の下を利用した物入れ。昔の人の生活の知恵が生かされている。

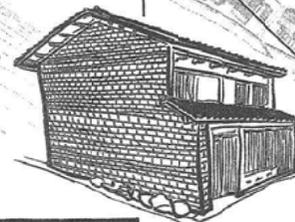
町並み館
館内には町並み散策パンフレットが置いてある。また、季節により展示物が異なることに注目。



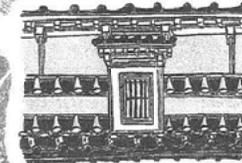
亀の彫り物
塀に彫られた亀。職人さん石工が自分の仕事をアピールするため手業の証とした。



水切瓦のある蔵
ひさしのように何列か並んだ瓦が縁飾りのように美しい。雨水から蔵を守るためにつくられた。



レンガの家
レンガは京阪神からの商いの帰りに船底に積んで持ち帰ったもの。吉良川に近代の新しい風を吹かせた。



虫籠窓
つし三階(天井の低い二階)の明かり取りのためにめ込まれた棧。

笠木山公園 (桜の名所)

御田八幡宮
避難場所

JA

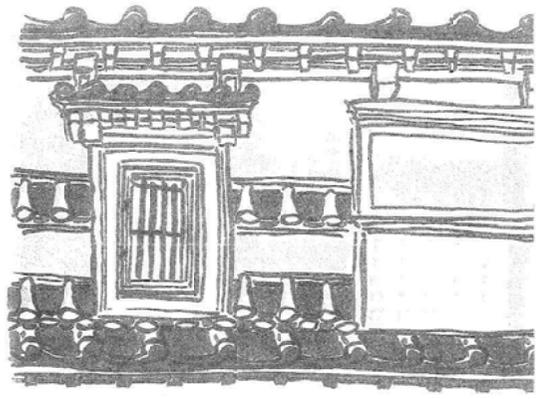
旅館

ぶっちょう

ぶっちょうのある商家
玄関の横につけられた上下開き板。閉じれば雨戸、開ければ縁になる。

妖怪ツルヘサカリ
あてもこない時、おぢやんに
聞いてもらったとき、シヤヤ段を通る
ときは、いっしょにいっしょにいっしょに
えもつ、通りよったわ。

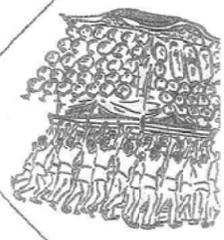
この昔の話、この里のシヤヤ
段は竹藪に囲まれ、そこに大きな
松の木が一本生え立ちました。その
松の木にツルヘサカリという
妖怪が住んで、松のてんべんから「子
とらやが、まてやうか」「これに
のれえ、これのれえ」といいた
ながら、するするっと釣瓶が降りて
きて通る人を脅かしました。ほん
で近まわりの子は、泣きまわら
ず、ツルヘサカリに取られるきん、泣か
ずに利口もんにしちゃった。



町並みの特徴

吉良川町の集落は、海岸に近い下町地区と、山側の上町地区で構成されています。下町地区には旧土佐街道の両側に切妻造りの町家が立ち並び、強い風雨から土佐漆喰の壁面を守る水切り瓦が美しい伝統的建築の町並みが見られます。

上町地区では、江戸時代中期頃の方形に近い農家型の地割りで、周囲に二重の塀を巡らせ、上町地区の景観を特徴的なものになっています。



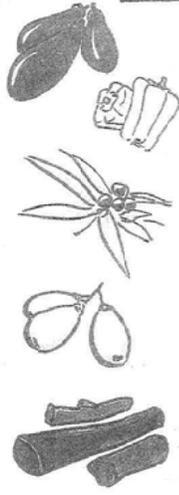
秋の神祭

秋（十月の第二の土、日）の神祭には町内から提灯で飾り付けた四つの花台や船が出され町中を練り進みます。

夜になぎく花台は、御田八幡宮の境内に集まり、順番に激しく回転し、いよいよお祭りクライマックスを迎えます。

境内では花台の提灯の灯りが乱舞し幻想的な音響を満喫できます。

吉良川の特産品

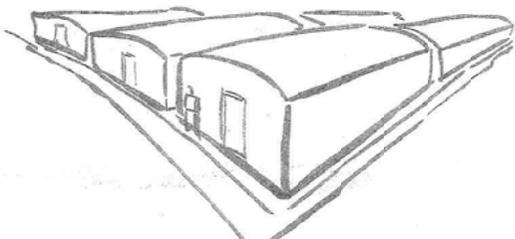


施設野菜
ピーマン、なす、ししとう、はすいも、すいかなどが栽培されている。

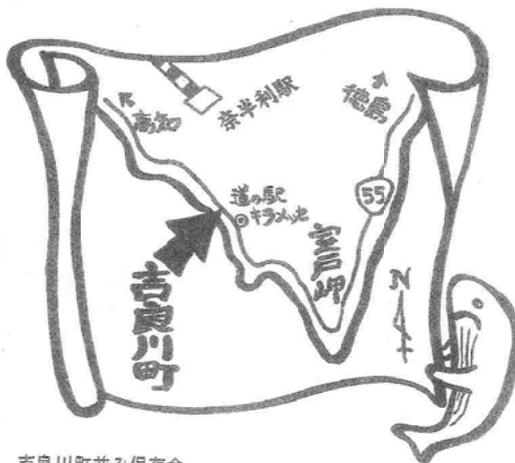
やまもも
花は高知県花。6月には暗紅色で甘酸っぱくおいしい実をつける。

びわ
日本一早い露地びわの産地。3月下旬～5月頃まで黒耳地区の国道沿いに店が軒を並べます。

土佐備長炭
ワハメ樫や青樫を原木に焼く白炭。黒炭よりも硬く火力が強く火も長時間もち。



ビニールハウス群
西山台地や平野に並んだビニールハウスは大正時代、油紙から始まった長い歴史がある。



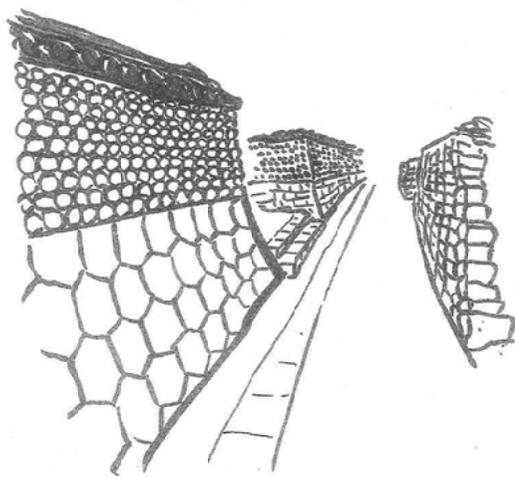
吉良川町並み保存会
会長 青木津吉 TEL:0887-25-2280
事務局 細木敏美 TEL・FAX共:0887-25-2011
事務局 携帯 090-8978-4516

まあ、いっぺん歩いて見とおせ

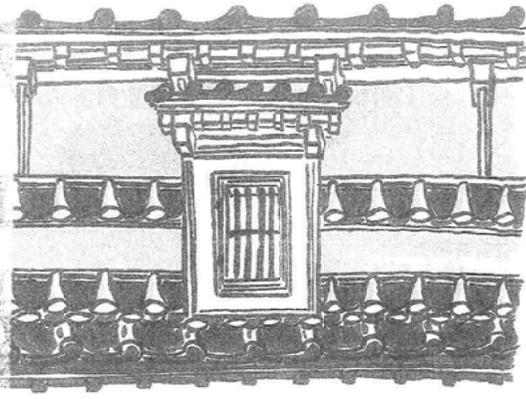
土佐東方見聞録 散策マップ

白壁と水切り瓦の町 吉良川編

(国選定重要伝統的建造物群保存地区)



吉良川町並み保存会



吉良川の歴史

吉良川町は薩摩市の西部に位置し、藩政時代より約十八町ほどの街道を距り移動した町になっています。吉良川の主要な産品には近世から木炭と薪があり、特に明治期から昭和初期にかけて、良質の木炭の集積の地として繁栄しました。吉良川の伝統的建造物群の多数がこの時期に建築されており、現在の吉良川町の町並みは近代の経済的繁栄を背景に形成されました。



御田祭

御田祭は、鎌倉時代より天下泰平を願い、五穀豊穡を記念して、隔年五月三日に奉納される古式祭典行事で、田楽、猿楽など、古風な能楽を演じ、芸能史的に極めて重要な物として、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

子供の産まれる場面もあって、お餅投げの祭りにしても喜ばれます。